|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **議事録** | | | | 作成日 | | 2013年11月08日 | | |
| 作者名 | | 中野拳吾 | | |
| **テーマ** | **Web e-ラーニングシステムの開発　開発経過報告** | | | | | | | |
| **開催日時** | 平成25年10月25日 | | 9:30~11:10 | | | | **開催場所** | 504 |
| **参加者** | 石井先生、田邊先生、3G1 | | | | | | | |
| **発表者** | 鎌田翔平(プレゼンター) | | | | 佐藤央和(オペレーター) | | | |
| 小野沢優太 | | | | 中野拳吾 | | | |
| 森口直輝 | | | | 湯浅史奈子 | | | |
| **議題** | 1 | システム化の経緯 | | |
| 2 | 機能紹介 | | |
| 3 | システム導入のメリット | | |
| 4 | 質疑応答 | | |
| 5 | 講評 | | |

| Ｎo | 議　　題 | 内　　　　　容 |
| --- | --- | --- |
| 1 | システム化の経緯 | 「１－１システム開発の背景」でこのシステムを作るに至った背景を説明。  「１－２システムのターゲット」で、誰をターゲットとしてシステムを提供するのかを説明。 |
| 2 | 機能紹介 | 「２－１学習の流れ」ではシステムの全体像を表示しながら、どういった流れで学習していくのかを説明。その中で高校Writingの「２－２授業受講画面」、「２－３確認テスト画面」、「２－４確認テスト解説画面」といったシステムの具体的な内容の説明。 |
| 3 | システム導入のメリット | 「３－１システムの効果」ではユーザと、このシステムによるメリットの説明。「３－２その他サポート機能」では主にスカイプを利用した質問機能を説明。 |
| 4 | 質疑応答 | 竹内さん「その他サポート機能のスカイプを使った質問機能について、スタッフの採用はどうするのか？」  →導入の際は、人が少ないと思うので10人ほど採用します。そして、利用者数が増加していくにつれてスタッフも増やす予定。 |
| 5 | 講評 | 田辺先生「3年生らしく落ち着いてる。服装を気を付ける。配布順は先生から。司会は起立していく。デメリットが記載されていない。アナログで残す部分はないか。前回のプレゼンが改善されているか確認。」  石井先生「身振りを加えたり、資料のどこを参照するか指示したり、礼はしっかりできていたが、語尾が聞き取りづらく、資料の強調したい部分ができていない。オペレータとの連携不足。」 |

|  |  |
| --- | --- |
| ・Skype質問機能における必要人員が未調査なので、調査を行う。  ・サービスの提供の仕方が不明確なので、次回の発表で説明する。  ・スケジュールなど、順調に開発が進んでいるか、発表する。  ・実際に成果物を発表の中で動かす。(開発が進んでいなければ、どのように開発を進めていくか  ビジョンを説明) | |
| 所感 |
| **森口　直輝** | **中野　拳吾** |
| 今回プレゼンに関わった部分は少なかったですが、プレゼンター、オペレーターがうまく連携して発表できていたと思います。  前回ユーザーのサポートできる機能が少ないという指摘を受け、Skype質問機能を盛り込んだが、適切な人員配置をするにはどうすればいいか、そこの部分が弱いので、次回のプレゼンまでに調査し、発表できるようにしたいです。 | 今回は前回の反省点、「具体性」を持ったプレゼンだったと思います。前回と違う点はメンバー全員がこのシステムの全体像を明確になったということ。これにより仕事も綺麗に分担できましたし、フォローもしやすく、意見もたくさん出てきました。  次回への課題は「もっとこのシステムを使いたいと思わせる」こと。まだ話し合いの段階で、前回も講評としてありますが、今回は間に合わなかった。次回こそ、この課題をクリアしたいと思います。 |
| **小野沢　優太** | **鎌田　翔平** |
| 第二回ということで、いくらか要領得てプレゼンテーションに臨めたと思う。しかし逆にその余裕が練習不足を招く結果になったことは、これから気を付けていきたい点である。内容についても何度か修正を施すこととなりプレゼンターやオペレーターが少し苦労してしまうことになったことも反省しておきたい。まだグループ全体で目的や強みといったところの理解がまちまちといったところなので、これからの開発工程を行う上でより一層の共通理解を深めていきたいと思う。今回は自分たちが思っていることと仮ではあるが提供される側が思っていること求めていることが、必ずしも一致しているとは限らないことがわかった。というのもただ機能やサービスを増やしていってもユーザ視点では本当に必要かはやってみなければわからないところもあるし、こちらが自信を持って出さないとユーザは信用してくれない。今まではユーザ視点で作っていたつもりだったが、いざ作ってみると開発の工程やシステムの仕様に気を取られそういった視点を忘れてしまいがちになることが分かった。もちろんそうならない人もいるし、そうならないように常に気を付けていくことが大切であるが、今回そこを再び振り返れたことが大きかったと思う。これからの経過報告や開発でもそれらを生かしていくつもりである。 | 今回はプレゼンターをやりましたが、全体的に私の準備不足、練習不足感が否めませんでした。  リハーサルではプレゼンの内容を理解していないのが露呈してしまい、本番までの一週間の間に内容全てを作り替えるとこととなりました。  また、今回のテーマの「開発途中経過報告」がプレゼンにあまり盛り込まれていませんでした。  次回以降プレゼンターをすることはないですが、この経験を踏まえたうえでメンバーの人をサポートしていきたいと思います。 |
| **佐藤　央和** |
| 今回はオペレータをやったが、明らかに練習不足が見られた。特に練習をしないでパワポを見ただけで本番を迎えたので、プレゼンターとの連携ができていなかった。 |
| **湯浅　史奈子** |
| 第二回のプレゼンでは班員での練習をしないまま本番を行ってしまい、やり直しになってしまったので次回は初歩的な注意を受けないようにしたいです。 |